

セミナーの概要

- 【開催日時】 12月9日（金曜日） 午後1時30分から午後4時30分まで
 【開催場所】 都庁第一本庁舎大会議場
 【開催目的】
 セミナーを通じて、広く情報発信を行うことにより、地域で相談支援を担う人材を育て、支える仕組みについて考える。
 【受講者】 全体参加者数 266名

■一般申込者数 226名		■講師及びスタッフ等聴講者 40名	
(内訳)	※複数回答	(内訳)	
所属	人数	所属	人数
障害当事者・家族	12	都協議会委員	9
指定相談支援事業所職員	112	講師（上記委員以外）	2
地域自立支援協議会委員等関係者	26	障害者施策推進部	2
行政職員	40	心身障害者福祉センター	27
民生委員・児童委員	0		
障害福祉サービス事業所職員	62		
その他	7		

【プログラム】

テーマ：人をつくる・地域をつくる —障害者（児）相談支援の充実のために—

第一部 話題提供

<話題提供者>

- ・齋藤 知穂 氏 東大和市地域自立支援協議会 委員
 （社会福祉法人東大和市社会福祉協議会
 精神障害者地域生活支援センター ウェルカムセンター長）
- ・櫻井 基樹 氏 板橋区地域自立支援協議会 相談支援部会 部会員
 （社会福祉法人にりん草 生活支援センターにりん草 管理者・相談支援専門員）
- ・和田 敏子 氏 東京都自立支援協議会 委員
 （社会福祉法人世田谷ボランティア協会 理事・福祉事業部長）

第二部 講演

- ・沖倉 智美 氏 東京都自立支援協議会会長
 （大正大学人間学部社会福祉学科教授）

第一部・話題提供（概要）

東大和市地域自立支援協議会委員から	板橋区地域自立支援協議会部会員から	東京都自立支援協議会委員から
■東大和市の概要（人口約8万6千人） ■地域自立支援協議会相談部会の成り立ち 協議会はH22.3月設置、4部会 →H24.10頃計画着手し、「計画相談支援事業所連絡会（計相連）」を立ち上げ、4事業所参加 →H26.4に相談専門部会へ。現在7事業所が参加 ■相談部会でおこなったこと ・協議会を形骸化させないために、初めから部会は「何を指すのか?」、「大切にすることは?」を議論 →「リーダーシップをとるのは、行政ではなく、自分たち」ということを確認 ・国書式から利用者目線の市独自様式を作成 ・事例検討ガイドラインの作成 ・他地域の相談支援事業者連絡会との交流会を開始 ・障害のある方の性と交際や、当事者の主体的な地域生活を考える学習会の開催 ■これから ・人材育成が厳しい現状 →部会の内容の充実を ・協議会を最大限に活用し、「障害者の必要に応じた制度を構築」していく	■板橋区の概要（人口約55万6千人） 現在、相談支援事業所32か所、うち1か所が基幹相談支援センター ■板橋区地域自立支援協議会 H19年設置。5期10年目、4部会。実務的な課題解決のため、H24.10月から相談支援部会の下部組織「相談支援事業所実務担当者会」を毎月開催 ■基幹相談支援センターのもとでめざしているカタチ H28年度からスタート。常勤1、非常勤1名体制 相談支援部会前の準備会で改善を図り始めた。 当事者・家族の要望を実務担当者会で吸い上げて、相談支援部会から協議会へつなぐ。 ■事例：Aさんの暮らし 障害者ではなく、個人として地域に関わる。 ■事例：答えは当事者が持っている 本人の意思を応援。アセスメント力が大切 ■事例：地域課題 ・力強いサービス提供責任者が代わったときの質の維持 →人材育成 ・他分野との連携	■世田谷の概要（人口約88万3千人） ■世田谷の重なり合う地域包括ケアシステム ・総合分野「あんしんすこやかセンター」→27か所 ・障害分野「基幹相談センター」 ・障害分野「自立支援協議会」→5部会 線引きはなく、互いに重なり合う包括システム ■地域障害者相談支援センター 障害分野の相談機関として5か所に設置 ■計画相談 特定指定計画相談事業所38か所 →人材不足 ■相談員としての日常 相談支援専門員、高次脳専門相談員、相談支援センターのバックアップ、ケアマネ等 ■東京都自立支援協議会 ・「ライフステージを軸として」作成に携わり、グループ討議による課題抽出の過程で整理できたこと、当事者委員からの重要な意見等について ■見えない不安を解決するには 障害者等⇄地域の相互理解を作る仕掛け作り ■まとめ お互いに知り合うきっかけを作ることが重要

第二部・講演（概要）

■活動の実際 第3期、第4期のテーマ設定及び活動の4本柱について

■得られた成果とその意義

- ・第3期：討議のまとめ「ライフステージを軸として」の図の作成
 乳幼児期、学齢期、青年・壮年期、高齢期のそれぞれの移行期における段階での円滑な移行が重要
 ということを確認。当事者が一般の政策や施策の中でどれだけサービスや制度を利用して暮らせるかが重要
- ・第4期：「相談支援専門員等に求められる視点、行動」の図の作成
 連携とは何を以って「連携」というのか。信頼され、情報が集まる専門員になることが重要
- ・当事者委員を大切に。先を見通し、次のステップへ託す準備と全体を見渡す力が移行期には重要
- ・相談支援専門員は、スーパーマンを目指すのではなく、コーディネーターである。

■残された課題と提案

- ・地域協議会との連携を強化することが重要
- ・図のような煩雑な作業を地域で取り組むことが、地域づくりの近道
- ・立場の違いを超えて共通言語を生み出していく。皆がわかるように議論することが重要
- ・協議会で明らかになった地域課題を解決するためのルート作りは今後の課題

■おわりに

課題や問題の抽出に終始することなく、都の強みを発見し、解決への協働を。

アンケートの概要

第一部「地域によって様々な相談支援の具体的な成功事例や課題を知ることができとても勉強になった。」、「自分の事業所ですぐに生かしていきたい内容だった。」、「他地域の専門部会の取り組みがわかり、参考になった。」

第二部「都協議会の活動が良く理解でき、身近に感じた。」、「地域協議会の運営に参考となる話を多く聞いた。」、「相談支援専門員の要点がつかめた。」、「当事者が暮らしやすくなる地域づくりを目指したいと思った。」

回答(88人)	第一部	第二部
参考になった	147	150
普通	30	15
あまり参考にならなかった	1	1
無回答	10	22